

	科目名	担当者 (ふりがな)	曜日・時限	教室	目標	内容	テキスト	成績評価法
2	日本語2総合B	横山 和子 (よこやま かずこ)	月曜・2限	N313	日本社会の理解につながる文章を読み、読解力をつけるとともに、テーマにそって自分の意見を論理的に表現できるようにする。	前半は「異文化コミュニケーション」「公共の場でのマナー」「自分史」の3つのテーマについて、後半はクラス受講学生の関心のあるテーマについて、図書、新聞記事、統計資料などを読み、現代日本社会についての理解を深めます。内容を予測しながら文章を読む力、読みとった内容を日本語で表現する力、物事に対する自分の意見を論理的に述べる力をつけることを目指します。	プリント配布	授業への積極性50%、 活動(内容・日本語)50%
	日本語2会話B	工藤 聖子 (くどう せいこ)	火曜・1限	N301	自分の考えや気持ちを伝えることができるようになる。具体的なまとまった談話が理解でき、抽象的なものも流れが理解できるようになる。	話の構成を考えて話題ごとに話す、比較しながら説明する、因果関係を説明する、理由や背景と共に考えを説明することができることを目指し、受講者の関心に沿ったテーマでスピーチや小討論を行う。また相手に応じた話し方ができるよう、適宜敬語や表現を学ぶ。	プリント配布	授業の課題、参加度60%、 個人スピーチ20%、 討論などの活動20%
	日本語2作文B1	江口 典子 (えぐち のりこ)	月曜・3限	N306	自分の意見を述べ、待遇表現が使えるようになる。	日本語の文章を書く際のルールや表現を確認しながら、さまざまな文章の書き方を練習する。作文の書き方を理解しながら、テーマに合った文章を論理的に書けるようになる取り組みを行う。授業中はクラスメートと書いた文章を読み合い、コメントし合う。	プリント配布	授業参加度(出席・グループ活動)40%、 作文(宿題)30%、 期末課題30%
	日本語2作文B2	許 夏玲 (ふい はーりん)	木曜・3限	N206	自分の意見を述べ、待遇表現が使えるようになる。	様々な文章のスタイル(メール、エッセイ、体験報告、意見文、アカデミックなレポートなど)の書き方を学ぶと同時に、日本語の文章を書くために必要なルールや表現を学ぶ。課外の時間で大学のウェブクラスのeポートフォリオを用いて、ディスカッションを行うことがある。	プリント配布	授業への参加度(出席・授業態度)40%、 宿題30%、 課題レポート30%
	日本語2文法B	小池 恵己子 (こいけ えみこ)	木曜・1限	N302	中級後半から上級の文法項目を習得する。	意味や形が似ている表現文型の違いを理解し、使い方を学ぶ。短文を作って理解できているかどうかを確認し、その文をグループで検討する。また、新聞の記事の中から実際に使われている表現や文型を文法的に説明してみよう。	『くらべてわかる中級日本語表現文型ドリル』Jリサーチ出版	試験 60% 課題・提出物 20% 授業への参加度 20%
	日本語2漢字B	石崎 晶子 (いしざき あきこ)	火曜・2限	N305	750字程度の漢字とその漢字を使ったことばを学習し、運用できるようにする。	漢字の意味とその漢字を使ったことばの意味と使い方を学んでいく。今学期は、教科書の第1課、第3課、第5課、第7課、第9課を、だいたい2回で1課学習する予定。クラスでは漢字から語彙を広げたり、漢字語彙を使った文を作るなどの活動を中心にする。毎回、クイズを行う。	『Intermediate Kanji Book 漢字 1000 Plus, Vol. 1』凡人社 [改訂第3版]	クイズ 40% 課題 40% 授業参加度 20%
	日本語2講読B	米本 和弘 (よねもと かずひろ)	水曜・2限	N402	具体的な文章内容で、ある程度の長さの文章が読めるようになる。	この授業では、新聞記事や短いエッセイなど身近なトピックの文章と一緒に読みます。読んだ内容を理解するだけでなく、新しい単語や表現を覚えたり、グループでの話し合いや発表を通して、自分の考えを日本語で伝える練習もします。	プリント配布	授業参加度(出席・授業活動への積極的参加)40% 課題(授業準備・個人課題)60%

	日本語2聴解B	新谷 あゆり (しんや あゆり)	金曜・2限	N313	具体的なまとまった談話が理解でき、抽象的なものも流れが理解できるようになる。	スピーチ・発表・ニュースなどを聞いて、内容を理解する練習をする。ディクテーションと漢字の読みの試験も実施する。	プリントを配布	平常点(出席・参加度・課題)30% 小テスト・期末テスト70%
	日本語2特別演習B [マンガで学ぶ日本語]	宮本 典以子 (みやもと ていこ)	水曜・1限	N313	話し言葉やマンガ特有の表現が理解できるようになる。 自分の考えが伝えられるようになる。	マンガやアニメの鑑賞(かんしょう)を通して、よく使う話し言葉を学ぶ。今期は主に「学園」をテーマにした作品を取り上げる予定。授業のはじめにマンガの多読タイムを取る。言語表現の学習等はピア活動とする。また、日本のマンガについての発表や交流タイム等のグループワークを1,2回行なう。作品ごとの課題シート、まんが多読シート、発表資料等を提出する。	プリント配布	授業参加度40%、 提出物40%、発表20%
	日本語2特別演習B [ビジネスで学ぶ日本語]	笹目 実 (ささめみのる)	木曜・2限	N313	どのようなビジネス場面でどのような会話をするのか理解できるようになる。	簡単なモデル会話や長めのモデル会話を聞いてから、ロールプレーをする。どのような場面でどのような敬語表現を使うか理解し、ロールプレーなどで使ってみる。ビジネス表現に慣れ、自分でも使えるようにする。自国のビジネスに関して発表する。ある商品に関して、グラフなどを使いプレゼンテーションをする。ビジネス語彙に関する小テストをする。	プリント配布	授業への参加度(出席・授業態度)50% 課題30% 小テスト20%
	日本語1/2特別演習B [プロジェクト]	伊能 裕晃 (いのう ひろあき)	月曜・1限	N313	日本人学生とのディベートやグループ活動を通して、日本語の総合的な運用能力を高める。	この授業では、日本人学生と一緒に日本語でディベートを行う。最初に、日本語でディベートを行う方法を基礎から学んだあと、学期の前半は、身近なテーマでディベートを行う。学期の後半には、現代社会の様々な問題について、資料を調べ、準備をして、ディベートを行っていく。学期の途中で、生成AIを使ったディベートの練習なども行う。この授業は学芸大の日本人学生のための授業「学芸フロンティア科目F」と合同で行われる。日本人学生と毎回会話をする授業であるため、この授業に参加する学生にはある程度の日本語の聴解力と語彙力も必要となる。	プリント配布	授業への参加度(出席、態授業態度)40%、 課題30%、 ディベートの評価30%
	日本語2/3特別演習B [多読]	桂 千佳子 (かつら ちかこ)	金曜・1限	N313	「多読TADOKU」の特徴を理解し、実践することで、日本語をより母語に近い使い方ができるように目指す。	「勉強するモード」から「自分のことばとして使うモード」への切り替えができるように目指す。 ①単語の意味や文法を気にしないで、「書かれている内容」について自分の中で対話できるように読む。 ②同じ場面でも、一人一人の理解が多様であることが実感できるよう、読み物などを通した対話のワークを行う。 ③学期末プロジェクト「発表」:「勉強するモード」と「自分のことばとして使うモード」のちがいについて、自由に発表する(ストーリー・動画・ゲーム・音楽・絵などの創作・今学期の取り組みへの感想・読み物紹介など、なんでもよい)	教室に準備してある多読用の読み物 多読に適したサイト紹介などから好きなものを選んで読む。	平常点(出席・多読としての読み・ワークへの取り組み):30% 読書記録シート提出:40% 学期末プロジェクト:30%